

看護部通信

2007.1.1 発行 第13号

2007年は看護の醍醐味を味わおう！

いよいよ2007年になります。看護部の中長期ビジョンも3年目になります。今年は看護の醍醐味が味わえる年にしたいと考えています。醍醐味とは、「物事の本当のおもしろさ、深い味わい」という意味があります。看護の本当のおもしろさや深い味わいを感じることができたら、仕事が充実し、プラスの感情が湧き、張りのある生活になるのではないのでしょうか。新生会第一病院と十全クリニックの主任・看護師長代理・看護師長・看護部長に看護の醍醐味（良い点・おもしろさなど）を一人50個出してもらいました。出された醍醐味の項目を分析し、整理しました。一番多かったのは、**人間的成長**でした。うれしいことです。この組織で働くと人間的に成長できるというのですから。

次いで、**看護展開・指導・支援**でした。日々の看護ケアが醍醐味になるというのです。精神的ケア・フットケア・合併症看護・患者指導・高齢者看護・終末期の看護などが挙げられました。個人として、チームとして、部署として、看護部として、看護のおもしろさを味わうことができたらと考えています。皆で、おもしろい看護をしましょう。何ができるか楽しみな年です。
【看護部長 岡山ミサ子】



フェルトで「ニコニコ花」を作りました。
1年間、楽しく過ごしましょう！！

暴力にはNoと言おう！！ ～ 一人で我慢しないで ～

【在宅透析教育センター 師長 宮下美子】

一般的にリスクと聞くと、患者が事故や障害など被害を受けることをイメージしますが、看護職員の健康を守ることも大切なリスクマネジメントの対象です。その中でも、最近、注目されているのが、看護職員に対する患者や家族からの暴力です。暴力とは、身体的暴力、精神的暴力（言葉の暴力、いじめ、セクシュアル・ハラメント、その他いやがらせ）を言います（詳細の用語定義は図1参照）。一般的に暴力は立場の弱いものに向けられることが多いので、病院の中では看護職員が対象になりやすいのです。特に、看護師は奉仕の精神が求められ、理不尽な言動でも我慢して受容することが必要だと思われがちです。自分達もそれが当然だという思いに縛られているのではないのでしょうか？同じことをされても、あまり気にならない人もいますが、一見、何事も無かったかのようにしている場合でも、怒りや不安・恐怖など様々なダメージを受けています。私達看護職者は、暴力に脅えながら仕事をするような立場のものではありません。専門的な知識や技術をもって、プロとして働く尊重されるべき存在です。患者や家族からの暴力を受けた個人の問題として終わらせず、組織として状況を把握し、対応策を検討する重大な問題だと認識しましょう。新生会第一病院リスクマネジメント委員会では、昨年10月に暴力対応のマニュアルを作成し、被災状況報告書にて報告をしてもらう体制を作りました。われわれ管理職は、組織としてサポートしていきたいと考えています。

★参考文献

・看護職者の労働安全衛生 一もうひとつのリスクマネジメントー 日本看護協会 2002年
・特集 暴力に対して看護管理職者ができること 一職員の安全を守るためにー
看護 2005.12 Vol.57 No.15 日本看護協会出版会

【暴力の用語の定義】 図1

身体的暴力	身体的暴力とは、他の人や集団に対して身体的な力を使って身体的、性的、あるいは精神的な危害を及ぼすものをいい、例えば、殴る、蹴る、叩く、突く、撃つ、押す、噛む、つねる等の行為をいう。
言葉の暴力	個人の尊厳や価値を言葉によって傷つけたり、おとしめたり、敬意の欠如を示す行為をいう。
セクシュアル・ハラメント	意に添わない性的誘いかけや好意的態度の要求等、性的ないやがらせ行為をいう。

新生会看護研究会

【金山クリニック 師長 江崎真知子】

新生会看護部は、10月29日(日)13:00から、名古屋港ポートビルにおいて、新生会看護研究会を開催しました。目的は以下の2点です。

- ①各部署が研究発表をすることによって、情報を共有化し、相互理解を深め、各チームが活性化し、看護部全体の看護の質の向上を図る ②
他部門や外部の人が参加することで、看護部が看護実践の向上に力を入れていることを理解してもらう

初めての試みで、午前中のSNF秋の総会に引き続いての研究会でしたが、124名の参加者がありました。また、太田圭洋理事長、伊與田院長、津島市立看護専門学校副校長の伊藤先生、名古屋記念病院井原副看護部長にご講評をいただくことができ、有意義な1日でした。また、今回の研究会の運営は、サテライト担当でしたが、主任を中心に、運営・進行にと、主体的に役割を遂行していただき、スムーズに研究会を実施することができました。

【セッションⅠ】

座長：永尾洋子 松田はるみ

- | | | |
|--------------------------------|--------------|---------------|
| 1. 看護師の受持ち意識を変化させる要因 | —看護師の意識調査から— | 鳴海クリニック 笹井妃加 |
| 2. チームで取り組む透析室学習会 | | 血液浄化センター 片村幸代 |
| 3. 病棟におけるNSTの取り組み | | 2階・3階病棟 石川みどり |
| 4. 高齢透析患者の認知症及び周辺症状に対するケア対策の検討 | | 十全クリニック 村上裕香 |
| 5. 居宅介護支援継続群と中止群の3年間の状況変化からの検討 | | |
| ホスピス居宅介護支援事業所 | 濱口ミイ子 | |

【セッションⅡ】

座長：倉田京子 佐藤真子

- | | | |
|-------------------------------------|-------|-------------------|
| 6. 透析患者への行動変容プログラムを活用した一例 | | 金山クリニック 澤田久代 |
| 7. 末梢循環障害に伴う苦痛の改善にアロマセラピーが奏功した一症例 | | 外来・手術室 青木恵子 |
| 8. 食べたいと思う気持ちへの援助 ～はじめての嚥下訓練へのとりくみ～ | | |
| あしたの丘 | 木下恵美子 | |
| 9. 透析患者の現在歯数など口腔状態の実態調査 | | 東海・東海知多クリニック 立石鈴江 |

この看護研究会に対しては、皆さんから多くの感想・意見をいただきました。一部をご紹介します。



★病棟のNSTは“新たな医療”の取り組みで、その成果も上がり、興味深かった。

★各部署がどんな所に力を入れて頑張っているのかわかってよかった。

★形式、進行ともに大変、良かった。

★他施設の研究発表会には行けないため、今回のようにすると聴くことができ良かった。

★普段、なかなか聞けない病棟やあしたの丘の活動内容が聞けて良かった。

★各施設の看護研究に取り組む姿勢が十分にうかがえ、研究会への参加が自己啓発に繋がると思った。

★先に発表して、口頭でも紙面でも質問を受けられるようであってもよかったかな。

★外部の人がいて、気軽に質問できなかった



ストレスマネジメント

～透析患者さんとの関わりで困った時～



「透析患者さんが理解できない」「ストレスになる」「透析患者さんとの関わりは難しい」という声をスタッフから聞きます。今回は当関連施設の看護師から提示された心理的問題のある患者さんの実態から透析患者さんとの関わりで困った時の対処を紹介します。
【看護部長 岡山ミサ子】

図2

1. こんな透析患者に困っている！！

心理的問題は、図2に示す通りです。これらの患者さんの特徴は高齢・長期透析、糖尿病の患者さんが多く、視覚障害・歩行障害、独居の人など、身体的・心理的・社会的なさまざまな要因が絡み合っています。それが問題行動として現れ、患者のストレスが医療者に向けられ、はけ口になっています。

2. まずは看護師の感情を吐き出そう！！

スタッフ間で、本音で感情を吐露できる雰囲気づくりや場づくりをし、一人ひとりの看護師が自己の感情や認知の仕方に気づけるようにします。福西は「自己の内面に好ましくない感情が生じたとしても自己嫌悪感を抱いたり、自己を責めたりする必要がないということであろう、むしろ他の透析スタッフも同様に陰性感情をもっていると解釈すべきである」と述べています。自分の陰性感情を否定せず、あたりまえの感情を受け止め、肯定していくことから始めましょう。

3. 問題行動の理由・要因を探ろう！！

患者の全体像をまるごと捉え直し、患者の世界に近づく努力をしましょう。患者の表面に現れている現象だけにとらわれるのではなく、事実をみていくようにします。石井は「（自己管理の悪い人は、治療法を守れない人ではなく、守れない理由をもった人と考えるべきだ」と述べています。問題行動を起こす理由・要因を探ります。多くの職種で患者の見方やアプローチ方法を話し合い、一人で問題解決せず、チームで取り組みましょう。

※詳しくは、透析ケア12月号『透析ナースが患者とのかかわりで「困った」とき』をお読みください。

看護師からみた透析患者の心理的問題

【N=78 2001.12 重複回答あり】

- ①不安(気分の落ち込み) (23)
- ②怒り・イライラ、暴言・暴力(18)
- ③自己管理不良(14)
- ④自己流の決断(13)
- ⑤医療不信(猜疑心) (10)
- ⑥依存・退行(10)
- ⑦コミュニケーション障害(8)
- ⑧治療拒否(7)
- ⑨不定愁訴(6)
- ⑩自殺企図・自殺念慮(6)
- ⑪病気・HDを認めない(4)
- ⑫不眠(4)
- ⑬せん妄(4)
- ⑭飲酒過剰(4)
- ⑮任せられない(3)
- ⑯理解力が乏しい(2)

いまいまナース

血液浄化センターで2人の男の子（陸くん4歳、隼くん1歳）を育てながら、母・妻・看護師として明るく、強く、前向きに頑張っている門嶋洋子さんにインタビューしました。

Q1. 子どもを育てながら仕事をして良かったとき、辛いときは？

- A.良かったとき：子どもがいるので、がんばって生きていこうと前向きに思えることです。
A.辛いとき：子どもから“さみしい”という言葉ができたので、もっと一緒にいてあげたいなあと思います。

Q2. 仕事が休みのときはどのように過ごしていますか？

- A.掃除や洗濯の家事をこなし、次男と遊び、手の込んだ食事を作ります。

Q3. 家庭や仕事でストレスを感じたときの解消法は？

- A.自分の欲しいものをまとめ買いします。（笑）



二人の子どもを育てながら、仕事でもプリセプターとして新人看護師と共に育てられています。上手にストレスを解消しながら、明るく前向きに三役をこなしてほしいと思います。

【血液浄化センター 師長 松井みゆき】